婚　姻　届

昭和 60 年 11 月 6 日届出

藤本和男 殿

受理 昭和　年　月　日 第　号	発送 昭和　年　月　日 長印
送付 昭和　年　月　日 第　号	

書類調査	戸籍記載	記載調査	調査票	附票	住民票	通知

		夫になる人	妻になる人
(1)	氏名		
	生年月日	年　月　日	年　月　日
(2)	住所（住民登録をしているところをかいてください）	番地 番　号	番地 番　号
		世帯主の氏名	世帯主の氏名
(3)	本籍（外国人のときは国籍だけをかいてください）	番地 番	番地 番
		筆頭者の氏名	筆頭者の氏名
	父母の氏名 父母との続き柄（養父母についてはその他の欄にかいてください）	父 / 母 / 続き柄 男	父 / 母 / 続き柄 女
(4)	婚姻後の夫婦の氏・新しい本籍	□夫の氏 □妻の氏	新本籍（左の ☑ の氏の人がすでに戸籍の筆頭者となっているときはかかないでください） 番地 番
(5)	同居を始めたとき	年　月	（結婚式をあげたとき または 同居を始めたときのうち早いほうをかいてください）
(6)	初婚・再婚の別	夫 □初婚 再婚（□死別 □離別 年　月　日）	妻 □初婚 再婚（□死別 □離別 年　月　日）
(7)	同居を始める前の夫妻のそれぞれの世帯のおもな仕事と	[夫][妻] 1. 農業だけをしている世帯 [夫][妻] 2. 農業とその他の仕事を持っている世帯 [夫][妻] 3. 店や事務所を持って，自由業・商工業・サービス業などを個人で経営している世帯 [夫][妻] 4. 管理・事務・教員・販売・外交・医療保健技術者・専門学校卒業以上の技術者 などの勤労者世帯（臨時・日雇は6） [夫][妻] 5. 4にあてはまらない勤労者世帯（臨時・日雇は6） [夫][妻] 6. その他の世帯	
(8)	夫妻の職業	（国勢調査の年…昭和55年…の4月1日から翌年3月31までに届出するときだけかいてください） 夫の職業	妻の職業
	その他		
	届出人署名押印	夫 Personal 印	妻 Effects 印
	事件簿番号	No.7	

婚　姻　届

昭和 46年 7月 1日届出
東京都台東区長 殿

	夫になる人	妻になる人
(1) 氏名	齋藤健次郎	渡邊美代子
生年月日	昭和 21 年 3 月 4 日	昭和 24 年 5 月 26 日
(2) 住所（住民登録をしているところをかいてください）	東京都台東区東上野3丁目 5 ~~番地~~ 番 11 号	東京都台東区東上野3丁目 5 ~~番地~~ 番 11 号
世帯主の氏名	齋藤健次郎	齋藤健次郎
(3) 本籍（外国人のときは国籍だけをかいてください）	東京都台東区東上野3丁目 86 番地	山形県最上郡東小國村 大字吉沢1416番地
筆頭者の氏名	齋藤惣一郎	渡邊廣治
父母の氏名 父母との続き柄（養父母についてはその他の欄にかいてください）	父 齋藤惣一郎 続き柄	父 亡 渡邊廣治 続き柄
	母 亡 はを 2 男	母 ゑはる 長 女
(4) 婚姻後の夫婦の氏・新しい本籍	☑夫の氏 □妻の氏	新本籍（左の☑の氏の人がすでに戸籍の筆頭者となっているときはかかないでください） 東京都台東区東上野3丁目86 番地
(5) 同居を始めたとき	昭和46年 6 月	（結婚式をあげたとき または 同居を始めたときのうち早いほうをかいてください）
(6) 初婚・再婚の別	夫 ☑初婚 再婚（□死別 □離別 年 月 日）	妻 □初婚 再婚（□死別 □離別 年 月 日）
(7) 同居を始める前の夫妻のそれぞれの世帯のおもな仕事と	夫 妻 1.農業だけをしている世帯 夫 妻 2.農業とその他の仕事を持っている世帯 夫 妻 3.店や事務所を持って、自由業・商工業・サービス業などを個人で経営している世帯 夫 妻 4.管理・事務・教員・販売・外交・医療保健技術者・旧専門学校卒業以上の技術者などの勤労者世帯（臨時・日雇は6） 夫 妻 5.4にあてはまらない勤労者世帯（臨時・日雇は6） 夫 妻 6.その他の世帯	
(8) 夫妻の職業	（国勢調査の年…に届出するときだけかいてください） 夫の職業	妻の職業
その他		
届出人署名押印	夫 齋藤健次郎 ㊞	妻 渡邊美代子 ㊞

本籍の書き方参照

証人		
署名押印	吉田邦夫 ㊞	唐澤撤藏 ㊞
生年月日	大正 14 年 10 月 5 日	明治 43 年 1 月 22 日
住所	東京都荒川区東日暮里3丁目 10 ~~番地~~ 番 8 号	東京都世田谷区代沢4丁目 6 ~~番地~~ 番 4 号
本籍	愛知県一宮市宮前町 24 番地	横浜市港北区三保町 419 番地

㊟ □には、あてはまるものに、☑のようにしるしをつけてください。
届書に書き込むときは、なるべく黒いもの（黒インク・ボールペン（黒））等を使用してください。

今月の引用

「愛の営み」などといったタワけた言葉にくるみこんで愛する者を肉体に引きもどすしかないとは、人間ではまこと地獄の生きものではありませんか。「M博士」池内紀

…人間とはあるがままの姿なのである。人を憐れむのが無礼なら、人を変えようとするのも同じように無意味かつ僭越なことである。

「不自然な死体」P.D.ジェイムス

サディズムは自然の本能だ。すべての幼い子供たちはサディストだ。人間が年頃になると、たいていの場合、サディズムはセックスに昇華する。…それがもっと低劣な本能と混じり合うこともある。例えば権力コンプレックス…愛国精神…宗教…「十二夜殺人事件」Mギルバート

乙の頁

1〜3号にのせた天皇の問題の答えはメイジッテンノ、タイショッテンノ、イマノッテンノ、でした。この謎々を小耳にはさんだ時、ちょっとカゲキかと思ったけど、出題者の沖縄の青年によると、かの地ではやっているという。

小・中・高校で「君が代」が歌われている率、73.68.53%の全国平均に対し、沖縄は0.0.0%。この歴然たる差。にもかかわらず沖縄県議会が国旗掲揚、国歌斉唱の励行を決議した時、沖縄大の教授だったかが「異端になることを恐れたのだ」と評していたけれども

11/3 近所を歩いてたら商店街一軒残らず日の丸あげてたその恐しさ不気味さ

超々級の戦犯ともいえる存在を奉っている「正統」の異常を思う

正常とは習慣化された異常(スウフト?)

今、巨民大学で「現代社会と音楽」という講座を受けている。今までの講師は鳥越けい子さん。マリー・シェーファーの〈野性の湖のための音楽〉のVTRを見た感想は。

考え方としては面白いとは思うが、湖の生物の反応をみる、など、結局は〈人間のための音楽〉になっている思い上がりを感じたりもした。特にその脅かすような語り口が好きになれない。西洋人の人間が克服すべきものとしてある自然観がかいま見えたような。

個人的には、人間が湖のために奏でられる最良の音楽は、湖自体を奏でること、即ち、湖の中に入り込みつつ水浴びすることなどによって醸しだされる〈音楽〉じゃないかと思っている。

今月の読書

たのしきオルグられ

11PMに「風の旅団」が出るって教えてくれた(四)君、どもありがとう。それにしても玉井敬友のすばやさと絶妙(?)には驚かされた。

「釈迦プリンス論」上杉清文

釈迦は癲癇だった(?)

釈迦の平等主義

「賤民文化と天皇制」菅孝行

中国経由の日本仏教は差別の社会秩序の再編と絶対化に加担するところが大きい。(殺生禁止、食肉の不

戒名に被差別部落用布

「過去帳」は差別用語

インディペンデント ジャーナル号(四)「続・差別用語」「差別用語」

「私ではなく、不知火の海が」土屋フラム編

優生保護法

「原発ジプシー」堀江邦夫

水俣 現状と展望

「片居からの解放」島比呂志

「いのちの初夜」(四) 北條民雄

「王国と奴隷」ジャック・ジョン 風の旅団

スサノオは民間で人気のある神なの

大和朝廷による スサノオ悪役潤色

出雲民族を大和朝廷が征服させた

姪子の誕生と抹殺の経緯には、底面もなく障害者差別と女性差別の原理が働いている

(四) 斎藤茂吉 斎藤

絵金の代表作は土佐の赤岡町の神社にある

「土佐の赤岡なんかも鎌倉時代の散所までさかのぼれますし」

枯れ葉剤による(と思われる)二重体児の番組を見た。(「ニュースステーション」11/5)絵画としてあるなら楽しめもしようが(H.ベルメールのそれのように)現実の存在として現存しているその重さ。生命の凄さ。「いのちの初夜」の一節を思い出す。「あの人達は、もう人間じゃあないんですよ。…いのちそのものなんです。あの人達の『人間』はもう死んでとびてった人です。ただ、生命だけがぴくぴくと生きているのです。なんという根強さでしょう。…けれど…新しい思想、新しい眼を持つ時…再び人間として生き返えるのです…」ここに描かれている癩のすさまじさを読み、今はそれも直るものであることを思うと、科学の進歩は有難いと、カレハ剤を生み出した科学を呪ったその口で言ってしまう。(北條民雄を川端康成がかっているのは、癩の出自問題と関係あるのだろうか)

今は直る病である癩病患者が、未だに癩予防法によって行動を縛られ遺伝病でもないのに優生保護法の対象となっていることを知る時、あの「砂の器」という映画に疑問を感じざるをえない。"苦いた隔絶の島・ハンセン病秘話"という番組があった。(「報道特集」10/27)偏見の眼は依然として根ぶかいことを知る。しかし外観において、人間めうぐり出した病であるカレハ剤奇型児達ほど異形のものではないと感じたことを思う時、カレハ剤作戦の決断を下したJ.F.ケネディを非道の者として糾弾したくなるけど、実は私もケネディだったことを思い出してしまう。高校時代、生物部に属し、体液の交流を知るためと称し、2匹のラットの皮膚の一部をつなぎあわせ人工的なシャムマヌ生鼠を造り出していた自分がある。知りたいと思う心の罪深さを思う。

言語の見解の限界

(ふ)つふっふっ　ぶつぶつぶっ

☆先日、友人と話していてP.E.の僕の書いたものに対する批判があったので少し書いておきます。例えば「気にいらないのは若いうるさいニチャニチャキャーキャーの女の子」というのは女の子のすべてを規定して(そんなつもりは当然ないけれど)言い切ったファシズムにつながる傲慢な意見でありそんな快・不快を言うだけではなんの発展性もないということです。指摘されたことはうなずける点もあり考えさせられた。

また奇型・死体に関して面白がっているだけといわれたのですが、死(体)については全く逆に厳粛な気持ちで見ています。奇型には資質の違いといってしまえばそれまでですがある種の興味をもっているのはたしかです。説明できなければいけないのかもしれないけれどなかなかむっかしい。ひとつ言えることは目をそむけることだけはしたくないということ。気持ち悪いからといって排除していくのは簡単なことだからとても危険。差別意識など考えなくてはいけないことはたくさんある。

☆奇型といえば見逃していた「バスケットケース」を見た。いかにも低予算のカルトムービーらしく初々しい情熱にあふれていた。役者たちは妙に生き生きとして不思議に魅力あり(特にホテルの住人たち)。悲しい物語だ。切り離されたシャム双生児の堅密な閉じられた世界から正常体である弟が恋(性)の世界に出ていく時、奇型体である兄は嫉妬の悲鳴をあげる。兄と弟、身と心のバランスは崩れ、兄は女の下腹部を破壊し弟の性器をつぶしながら窓から下へ二人して落ちていく。重なり合った死体は再び元のようにつながっているようだ。ここには奇型者の性的欲望が素直にあらわれていてとても正常だ。まやかしのヒューマニズムで泣かせることなく奇型者の抑圧をはっきりと見せてくれた。

☆筒井康隆「霊長類南へ」例によってツツイ的過激場面もあるがそれよりも静謐な美しさにあふれたエロティックな終末幻想。(これ何年前の作。?)

栗本慎一郎「鉄の処女」現代思想総批評案内。その遠慮のない戦い方は気持ちいい。他の学者の本を何も読んでないので栗本個人の意見をうのみにするつもりはないので少しは勉強しようかな。

岡留安則「マスコミゲリラ宣言」「噂の真相編集長日記」ゲソ君の言う通り。

秋山祐徳太子「通俗的芸術論」ウンコパフォマンス。ゼロ次元の話などは面白。

池内紀「M博士」酔めたユーモア。平明な語り口で気づかなかった視点を知る。

糸井重里編「ヘンタイよいこ新聞」こういうのはどうも苦手です。そくばくされない感覚を広げていくという考えはわからなくはないが事実面白いものもあるのだけれど。彼らはメディアにもてあそばれているのでは。それとも逆にもてあそんでいるの?

◎言いたい放題　意見・情報　歓迎

No.

《微生物と音楽についての話》

J.G.バラードに細胞分裂の音を録音する話があって、植物と動物で音の質が違うなんてことを、とてもおもしろく読んだ。でもこれはそういう美しい話をしようと思って書き出したのじゃなく、ちょっと汚い(?)。さき程ウォネガットの事を少し書いたけど、この人の息子も本を書いている。「エデン特急」というのでして、自分がモッピーやってた頃の話です。まあドラッグやりすぎて変になっちゃうんですが、彼はサックスが好きで暇があると吹いていたという。でもマウスピースの中を全然そうじなんかしないのでドロドロしたものがついてくる…というか内面にべったりと層になる訳です。(私もサックスを吹くのでその様子がよくわかる。あれは唾液、呼気中の水分、口腔内粘膜のカケラ、歯垢、たべかす―歯垢とちがいますよ。―などの上に細菌が増殖した一大コロニーなのだ。)まあ、彼はそれを愛でる訳ですが、これと似たような話を前にもきいていた。たしかマルセル・モイーズとかいうフルートの名人がいまして、この人はとても音色が美しいので有名だった。彼のその美しい音色の秘密はフルートを一度も掃除したことがないという事で、中をのぞくとベッタリ、ドロドロだったという。あれにおうんだよネ。

オワリ。

慶應義塾大学法学部 通信教育課程学部講座

PS. ◉「新聞における乳首写真」で思い出したのは、ジェリーアンドリュースのオッパイ丸出しの写真を見たのは朝日の海外トピックスのカコミだった。大きくて垂れていた。

No.

5　10　15

の口からとられた模型《作業模型あるいは研究用模型という》ではない。何故かとなりに完成した入れ歯があったか、何故彼女の口に入らずに歯科医におきっぱなしになっていたのか？ とにかく公表された写真には疑問がある）

もうひとつはJALの墜落事件の林長の下の前歯5本という（前歯しかも下の前歯はあまり特徴がないからだ。）あれ…。あれも怪しいといえば怪しい。何となく、林長が、何百万年も前の「猿人」と重なってくる。JALのジャンボをあやつるナントカピテクス。あるいはナウマン象を追う林長。

もうひとつ気になる骨がある。仏捨（まちがい）仏舎利であります。世界中の仏舎利を集めるとそれだけで1㌧以上になるという話をきいた。とすれば、仏さんはまさしく奈良の大仏ぐらいの人だったのかもしれない。たしか絶滅した猿人の中にギガントピテクスというのがいた。これは2m以上の身長をもっていたという。ひょっとするとブッダは先祖返りのギガントピテクスだったのか…？ おどろくにはあたらない。（うちの家内の説ではブッダ族は皆ギガントピテクスで、食べ物がなくなって絶滅したのだ、とのことである。）K.ヴォネガットの「スラップスティック」には天才のネアンデルタール人が出てくる。彼は身長2mで、米国大統領もつとめた程である。（ネアンデルタール人も背中をまげずに直立していたとわかったのは比較的最近の事だ。地層に埋もれた骨が曲がっていたので皆そう思いこんでいたという訳。御粗末。）夢はうつつだ。合掌。

≪しつこくも鳥の死骸からはじまる世間話≫

小学生の頃、友人と三角ベースをやった広場に小さな砂山があった。ある時これをほじくっていたら手のひらにのるくらいの小さな鳥のミイラが出てきた。おそらく何かのヒナなのだったのだろう。猫かなにかが捕えてきて、ほったらかしたものが砂にうもれてミイラ化したのだと思う。(犬をほるのは犬だろうか、犬は鳥をとらえたりしないだろう…) 妙に生々しく今でも印象にのこっているが、その時も今も不気味だとか汚いとかは思わなかった。カラカラになっていたせいだろう。

先日、TVを見ていたらある種の古生人類だか原人の化石は、上腕骨の一部、歯が一本、そしてどこだか1かけらの計3点しか見つかっていないが、人類の発生を考えるうえで非常に貴重な種であるとのことだった。デスモスチルスとかいう原始的大乳類は歯しかみつかっていないが、全身の想像図がある。歯一本や、[redacted]頭骸骨の一部でもあれば全身が推定できるというのは素敵だ。(身体各部の比率がわかっているからだということが基本となる訳だ。しかもそれは種によって微妙にことなっているから骨一個でも同定できる。)

最近で思いだしたのは、三浦事件の"ジェーン・ドゥ・よよ"こと白石千鶴子さんの歯型(写真で見ると歯型ではなく既成のプラスチック製の患者説明用のものだと思った。あれは本人

★音版パーソナル・エフェクツ第一号頒布のお知らせ★

★《Personal Sound Effects》第一号収録作品のラインナップがほぼ決まりました。今回は九名の方々から郵送あるいは手渡しで参加作品のテープをいただきました。どうもありがとうございます。

★締切りを多少過ぎても融通をきかす、ということにしましたが、考えてみれば印刷メディアのほうの《Personal Effects》の締切りが大体前の月の末日ですから、これに紹介記事を間に合わせるためには、やっぱり前の月の二五日ごろには参加作品を揃えておきたいと思います。今回は最初なんで、二九日まで待ってみました。

★第一号の参加者は、倉本高弘、田島敦夫、金野吉晃、荒井真一、大野由美子＋今井　隆、福本健修＋乙部聖子、藤本和男、河合　渉といった面々。作品の長さはまちまちですが、最長は金野氏の約十分(ただし、彼は三トラック送ってくれた。ほかはすべて一トラック)、最短は藤本の約二分。「長い作品なので適当に抜粋してほしい」、という希望は田島氏と荒井氏から（五、六分程度収録する予定)。あとの人は三分～五分といったところです。

★今回自作以外の作品で参加したのは倉本氏（レコードからの録音)。

★それから、今回は参加者から既製曲のリクエストがあり、たまたま編集者がそのテープを持っていたので、お応えしました。

★「適当に抜粋してください」というのも結構ですが、今後はできれば「どのへんを何分ぐらい」程度の希望を添えるようにしてください。というのは、編集者の好みの入る余地をできるだけ排除したいから……。

★まーともかく、九月二日あたりで編集を終え、参加者各位にお送りするつもりです。

★参加者以外でテープが欲しいという方は、ブランク・テープ（今回のテープは四六分です）に一二〇円分の切手を添えて、下記までお申し込みください。これはいつでも結構です。

★次回参加希望者も、下記あてにテープお寄せください。こちらの締切りは一一月二五日です。

★《Personal Sound Effects》編集者＝藤本和男　〒一六六　杉並区高円寺北三－二二－八　碓氷ハウス二階　☎〇三(三一〇)五八四二

☆最近読んだもの：①春菊／内田春菊、②改定版大日本帝国漫画／原律子、③金魚のまくら／森下裕美、④キンランドンス／丸尾末広、⑤歌謡漫画大全集(競作)、⑥エラーマン／泉昌之、⑦まねして悪いかっ／伊達めがね&DATE企画、⑧妖怪七変化／好美のぼる、⑨理髪店主のかなしみ／ひさうちみちお、⑩ブラック・ユーモア傑作選(阿刀田高編)、⑪夏目房之介の漫画学、⑫(現在)との対話四・栗本慎一郎、⑬増刊中央公論・SFオデッセイ、⑭現代詩手帖一〇月号・特集　超＝コミック、⑮美術手帖一〇月号・特集　パフォーマンス、⑯HOLIC第四号、など。⑭⑮は特集につられて中身も見ずに買った（現代詩手帖買ったのは十年ぶり、美術手帖なんか新品で買うのは初めてだ）んだけど、これはどちらも失敗。つまんねーでやんの。でも、いずれも反面教師的に役立つかもね。例えば、⑭を読んで漫画批評の不毛さを改めて確認。おかげで①～⑨について書く気がなくなってしまったが……。まあ、「どれも面白かった！」で済むんですが。特に⑨には思わず感動してしまった。とても美しい作品です。漫画以外の本については――⑩には久々に「小説を読んだ」って感じ。収録作品は（本職の作家以外の作品も含めて）どれも立派な出来映えです。あ、僕は「物語」も好きなのね、モノによるけど。⑪は著者の微妙な立場（漫画家であるような、ないような……）が面白い。「線」へのこだわり。⑫のクリモトは相変わらず下品で、タマにいいことを言っても素直に同意する気になれない。「過剰」に対する過剰な思い入れも饒舌しい。でも、この本（小阪修平との対話形式）はクリモトの主張一辺倒にはなっていないので、割りと読みやすい。⑬に収録された小説群は「よくできているが、あまりにも理に落ちた感じでいまイチ面白くない」ってのが多い。途中で結末が予想できるものばっかりだし。山田正紀とか荒巻義雄の作品は久し振りに読んだけど、山田は相変わらず「神狩り」の人だったし、荒巻作品はやっぱり哲学漫画って感じなのでした。筒井康隆も一篇載せてるけど、彼の作品としては面白さは中の下ぐらい。この増刊号では、小説よりも論文やインタビューのほうがむしろ拾い物でした。⑮は「カジノ・フォーリー」誌ほどには毒々しくないけど、結構辛口に批評誌してるじゃん。もちろん中にはつまんねーエッセイなんかも散見するけど、なかなか快調でいいんじゃない。

昭和六〇年一〇月二八日